

頭と汗による川東水路

阿井には、内谷真地橋（渡部敬氏前）より約二百米上の所で阿井川をせき止め、ここを水の取入れ口として、延々八kmにも及ぶ水路が川東の山々の山根を通り、小谷奥・雲崎を経て奥湯谷まで延びている。この水路の通水によって、新田が約六〇ヘクタール（約六十町歩）受益水田が約百ヘクタールにも及んだ。これは昭和初期の大事業であった。

この水路はただの水路ではない。これまでに至る過程には並々ならぬ工夫と努力があり、又世にも珍しいサイフォン工事による通水がある。

昭和三年、これまでも計画されていたこの水路をぜひ完成させたいものと、武田常蔵氏は強い意志と熱意で、長瀬富之助、川角源六、藤原栄三氏等とはかり、五月には川東水路組合を結成して工事に着手した。途中様々な困難が、とりわけ財政的な問題も発生して破たん寸前まで追い込まれたこともあったが、顧問である櫻井氏の財政援助を受けるなどして何とか乗り切った。

遂に昭和十二年に完成し、通水の喜びとなった。

サイフォン通水とは、一旦山の上まで導いた水を、谷底までパイプで降し、そして向いの山の上まで水を上げる方式。今は鋼管を使っているが、当時は鉄筋入りのコクリート管であり、谷底まで約四十米もあった。重機のない当時最大の難工事であった。

なお、通水記念碑は、取水口から下った最初の土砂吐き装置に近い道ばたに建てられている。又、この業績のあった櫻井三郎右衛門氏、武田常蔵氏、藤原栄三氏外多くの努力者の顕彰碑が阿井小学校前の交差点の所に建てられている。



上流側



下流側

